

賛美歌誕生秘話 「罪深きこの身を」

教会で歌われる賛美歌の中には、メロディーに馴染みのあるものがいくつかあります。「罪深きこの身を」もそのひとつで、フォスターの「故郷の人々（スワニー川）」のメロディーに合わせて歌います。

「おおスザンナ」や「ケンタッキーの我が家」などで知られる、アメリカの代表的な作曲家スティーブン・フォスターが生きた19世紀半ばは、黒人奴隷制度を巡る対立が激化していました。奴隷制度に反対していたフォスターは、故郷を思う黒人奴隷の悲しい気持ちを歌詞に込め、黒人歌風の歌として世に出しました。

アメリカ中で大ヒットしたこの歌は、やがて海を渡り、明治時代の日本に取り入れられます。そして、「あはれの少女」というタイトルと歌詞が付けられ、唱歌として紹介されました。その後、賛美歌の歌詞が付けられ、教会でも親しまれるようになりました。

馴染みのあるメロディーと共に、この賛美歌は親しまれ、歌い継がれてきたのです。

1. 罪深きこの身を 愛して イエスは木に掛^かかられ
いのち捨てぬ 何たる愛ぞ！愛ぞ！
涙にただむせびて イエスを見る^{ほか}他なし

(折り返し)
救いはこの身に 成就^{じょうじゅ}しぬ
われ いかで疑わん 主の御業^{みわざ}を

2. われ滅びの中に ありしを 主は捜^{さが}し求めぬ
長き月^{つきひ}日 今やわれの罪は 跡^{あと}なく
主の血にて洗われ きよくなれり

3. 今心にあるは 安きと 主に献^{ささ}ぐる感謝の
きよき調べ われいかで再び 快楽^{かいらく}を
愛して 主の御許^{みもと}を 去り行くべき

教会のひとこま① 教会の紫陽花

今年も教会の紫陽花が見頃を迎えました。まるで水彩画のような青紫や赤紫のパステルカラーが、見ている私たちの心を和ませてくれました。昨年の今頃は、九州や西日本を台風や豪雨災害が襲い、多くの方々が被害に遭われました。

今年はまた、違った心配事に直面している私たちですが、神様の守りと慰めが豊かに注がれ、平安が与えられますようにと、紫陽花を眺めながら強く願いました。



教会のひとこま② 花の日訪問

毎年6月、教会では花の日訪問を行います。今年も、子どもたちと一緒に近くの交番と消防署を訪問し、お花を届けることができました。子どもたちが、少し照れながらも「いつもありがとうございます」と感謝の言葉と共に、お花を手渡すと、大変喜んで受け取ってくださいました。このような新型コロナウイルスの影響で大変なときであっても、いつも私たちのために働いてくださる方々への感謝の心を忘れないようにしたいですね。



森繁 昇サマーコンサート Vol.18 8/30(日) 15:00～

宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル(聖書のお話)

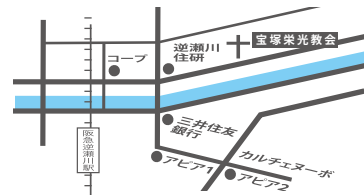
0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30～10:40

第二部 11:00～12:10



教会HP



礼拝動画



キリストの平安

何が起ってくるかわからない今の世の中、誰もが平安を求めています。どうしたら平安を得ることができるでしょうか。

イエス・キリストはこう言われました。「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。」(ヨハネの福音書14章27節)

ある人は、「お金があれば安心だ」と言います。本当にそうでしょうか。一人ひっそりと亡くなったある老人の枕の下から、数百万円の預金通帳が出てきました。その人は、こつこつ貯めたお金を大事に預金していましたが、いつ、誰に奪われるかわからないという不安にさいなまれて、いつも枕の下に入れて寝ていたというのです。お金があっても、平安ではないのです。

地位を得られたら平安でしょうか。ある会社の重役は、いつ部下が失敗をして自分が責任を取られるかと思うと、夜もぐっすり眠れないとこぼしたそうです。地位を得ても、本当の平安にはつながらないのです。

キリストは言われます。「わたしはあなたがたに…わたしの平安を与えます」と。キリストの平安、キリストだけがお与えになる平安を下さると言われるのです。それは、富や地位や名誉のような外側から得られる平安ではなく、キリストが私たちの内側に与えてくださる平安、魂の平安です。

キリストは罪のない神の子でしたが、私たちのために十字架にかかって死なれました。私たちの傲慢や自己中心、人への蔑(さげす)みなどの罪のためです。私たちがすぐに恐れたり不安になったりするのは、この内心の罪のためなのです。私たちがキリストの十字架を信じるなら、すべての罪が赦され、私たちは救われます。その時、私たちは初めて、内側に本当の平安を得ることができます。

この平安は、この世が与えるような、すぐになくなってしまふ、一時的なものではなく、動くことのない深い平安です。あなたもこの平安を内に持つことができます。今、キリストのところにおいでください。



「ネムノキ（合歓の木）」

夏の日射しを避けて 涼しい木かげに 身を寄せた時
ふと見上げた木の美しい花に 驚いたことがあった
その葉の色と 花のやわらかな色あい
目に焼きついて 忘れることはなかった

その木が 合歓の木と知ったのは
誰かに名前を聞いて 教えてもらったからと思う

今も ピンクのグラデーションの 細い糸を束ねたような花を見つけると
なつかしい人に出会ったような気持ちになる

夜になると 左右の葉がぴたりと合わさって 閉じて垂れ下がり
まるで 木が眠っているように見えることから
ねむの木 ねんねの木 眠りの木と呼ばれるようになった

なぜ 葉をたたむのか
直射日光を避け 乾燥を避けるため
もうひとつの理由は 体内時計で
1日のリズムを保っているからと考えられている
夜間に強い月の光を浴びると そのリズムが崩れてしまうから
葉をたたんでいるという

木の枝が風にそよぐ姿 花がゆれる様子は
思わず心が和んで やさしい気持ちになってくる

そんなネムノキの花を思いながら
今年も夏を迎えて ここまでくることができたことを感謝している

主が すべての災いを遠ざけて
あなたを見守り あなたの魂を見守ってくださるように。

詩編121編（聖書）